

展覧会  
案内

## 皇室と近代の陶磁 三の丸尚蔵館名品展

**会 期**：令和5年9月16日(土)～令和5年12月10日(日)  
**主 催**：茨城県陶芸美術館、宮内庁  
**特別協力**：文化庁、紡ぐプロジェクト、読売新聞社  
**後 援**：笠間市、朝日新聞水戸総局、茨城新聞社、NHK水戸放送局、産経新聞社水戸支局、東京新聞水戸支局、毎日新聞水戸支局、読売新聞水戸支局  
**休 館 日**：毎週月曜日(ただし、9月18日、10月9日、11月13日(県民の日)は開館)、9月19日(火)、10月10日(火)

三の丸尚蔵館は皇室に代々受け継がれた美術品を紹介する施設として平成5年に開館しました。その収蔵品は宮中での御慶事の際の献上品や、各時代の博覧会や展覧会での買上品など、貴重なものばかりです。本展は中でも近現代の陶磁器に焦点を当てたもので、19世紀の万国博覧会で好評を博した薩摩焼様式の作品群や、宮川香山や板谷波山ら帝室技芸員の名品を含む明治・大正期を代表する作品に加え、昭和期以降の個人作家の展開についても富本憲吉や河井寛次郎らの作品から辿り、日本の近現代陶磁の発展と皇室とのかかわりを一望します。茨城県笠間と兄弟産地の栃木県益子ゆかりの陶芸作家については、三の丸尚蔵館が収蔵する作品に、茨城県陶芸美術館のコレクション等を加えて紹介いたします。



▲六代錦光山宗兵衛  
金鷲鴛鴦図花瓶  
明治時代前期(19世紀)  
三の丸尚蔵館収蔵



▲幹山伝七  
四季草花図食器 明治時代前期(19世紀)  
三の丸尚蔵館収蔵



▲初代宮川香山  
竹籠に葡萄虫行列図花瓶  
明治10年(1877)  
三の丸尚蔵館収蔵



▲加藤友太郎  
玉蜀黍図花瓶  
明治34年(1901)  
三の丸尚蔵館収蔵

● **展覧会関連催事のご案内** \*詳細は、チラシや当館ウェブサイト等をご覧ください。

● **ギャラリートーク**

内 容：担当学芸員が展覧会をご案内します。  
 日 時：11月4日(土)、12月2日(土) 各日とも13時30分から14時15分まで  
 場 所：当館地下1階企画展示室 参加費：無料(要企画展観覧料)

● **つくば美術館土曜講座「三の丸尚蔵館の名品から見る皇室と陶磁器の近代」**

講 師：飯田将吾(茨城県陶芸美術館主任学芸員)  
 日 時：10月14日(土) 13時30分から 会 場：茨城県つくば美術館2階アルスホール  
 ※詳しくは茨城県つくば美術館へお問い合わせください。

(当館ウェブサイト)



## 躍動する鳥を追い求めて

田山 健司さん

まもなく9月にさしかかるといのに、なかなか落ち着きをみせない残暑の中、個展を開催している会場に田山健司さんを訪ねました。



### 出身はどちらですか？

笠間市です。

### 陶芸の道に進まれた経緯についてお聞かせください。

幼いころから陶芸家である父の仕事を手伝っていて、陶芸に慣れ親しんでいたということもあります。また、自分で好きな物が作れるということに魅力を感じていただいたと思います。父の窯を自分が継ごうかと考えていましたが、高校の先生から美術大学に行くなら彫塑を勉強したらどうかとのアドバイスを得て、彫刻科に入学しました。大学では様々な素材に触れてきましたが、陶芸作品は基本的には何千年先でも残ります。陶を焼くことはそこに意義があると思いました。大学卒業後、京都の製陶所と府立陶工高等技術専門学校でそれぞれ2年間ずつ学び、笠間に戻って父の窯を継ぎました。

### 作品づくりについてお聞かせください。

父の手伝いを経て、結婚を機に自分の物を作り始めました。個展の最中に東日本大震災に遭い、作品も大きな被害を受けました。それをきっかけに練り込みの技法を使って、鳥のオブジェを作ろうと考えました。父が絵付けのモチーフとして鶏を飼ってくれていたので、鳥が身近で好きだったこともあります。今は、自然環境の悪化が大変気になっていて、自分が鳥を作ることで、自然を守る事や環境保護のための啓発活動になればと考えています。器については、使い易さを考えて作っています。最近安定して使いやすくなった笠間長石も粉引きに使い始めています。

### 今後、どんなことをやりたいですか？

小さいころの経験や大学で学んだことなど様々な経験が、鳥のオブジェ作りに生きてきています。今後は、工芸作品として、もっと完成度、精度を上げていきたいと考えています。さらに、鳥の生きている瞬間を捉え、生態がわかるような動きを考えて作っていきたいです。できれば伊藤若沖の軍鶏図のような物を作りたいと考えています。鳥のオブジェ作りは、私のライフワークです。器については今も常に新しいデザインを考えながら、作り続けていきます。できれば、薪での焼成を増やしていきたいです。

### プロフィール

- 1964 笠間市に生まれる
- 1988 武蔵野美術大学彫刻科卒業
- 1991 京都府立陶工高等技術専門学校卒業
- 1997 artistcamp in kasama参加
- 1998 陶グループ「FROM ZERO」参加
- 2000 3人展（新宿高島屋）
- 以後、各地で個展・出展を行う

### 対談を終えて

田山さんが野鳥のオブジェ作りについてお話ししているときの笑顔は、少年のそのように輝いていました。田山さんのお人柄が感じられました。ライフワークとおっしゃっていた、野鳥のオブジェがどこまで進化して行くのか楽しみです。



### ●ヨーロピアン磁器絵付け講座

9月10日(日) および24日(日) のにわたり、講師にマリア・テレサ・ルーディ横田氏をお迎えしてヨーロピアン磁器絵付け講座を開催しました。今年度は白磁の皿に描くことにしました。19名の参加者は、真剣な面持ちで絵付けを楽しみました。



### ●友の会主催講演会

9月17日(日) に布浦万代氏を講師にお迎えして講演会を実施しました。今年度の演題は「万葉集から常陸国を読み解く - 東歌から見えてくるもの -」でした。49名の聴講者と一緒に東歌(東国地方で詠まれた)から当時の常陸国での暮らしぶりや人々の思いを読み解きました。



### 国内研修視察

今年度の研修視察は次のように実施します。

期 日：12月1日(金)～3日(日) 2泊3日

方 面：長崎・唐津方面

募集人数：先着20名(最少遂行人数15名)

費 用：約12万円(羽田空港までの往復代金は含みません)

申込方法：10月17日(火)までに電話にてお申し込み下さい。

そ の 他：参加者決定後、詳細についてお知らせします。

### 呈茶会

今年度の呈茶会は次のように実施します。

期 日：11月13日(月・茨城県民の日)

10:30、11:30、13:30、14:30、15:30

会 場：茨城県陶芸美術館地下1階オープンギャラリー

募集人数：50名(5席、予約優先、先着各10名)

参加費：500円

席 主：永地宗栄氏(裏千家)

予 約：11月2日(木)までに電話にてお申し込み下さい。

### 日帰り研修視察

今年度の研修視察は次のように実施します。

期 日：令和6年3月3日(日)

方 面：東京方面(五島美術館、飛鳥山博物館)

募集人数：先着20名(最少遂行人数15名)

費 用：約2万円

申込方法：12月14日(木)までに電話にてお申し込み下さい。

そ の 他：参加者決定後、詳細についてお知らせします。

### 会員へのプレゼント

令和3年度からの継続事業です。まだ受け取られていない方は来館時にお申し出ください。

なお、本事業は本年度末で終了いたします。令和6年3月末日までにお受け取り下さい。

### 編集委員を募集

友の会では各種事業を実施するに当たって、各種委員さんがそれぞれに役割を分担しています。今回、友の会だよりを編集する編集委員さんを募集します。掲載内容を検討したり、作家さんとの対談をしたりします。関心のある方は、ぜひ事務局まで連絡をお願いします。



## 良い品をそろえてご来店をお待ちしています

### 友の会特約店のご紹介

アトリエ・フラスカ	0296-72-9322	向山窯	0296-72-0194
笠間工芸の丘	0296-70-1313	丹野陶房	0296-72-4028
笠間みんげい	0296-72-9280	陶芸館	0296-72-6650
かつら陶芸	0296-72-6688	東風舎	0296-72-5205
ギャラリー桜	0296-72-0803	無限堂	0296-72-1695
ギャラリー舞台	0296-73-0700	やまさき陶苑	0296-72-6865

● 9月30日(土)～10月15日(日) 柴田裕子展

● 11月3日(金・祝)～11月12日(日) 櫻井理人・あゆみの陶展

● 11月18日(土)～12月3日(日) 高橋協子展

● 12月9日(土)～12月24日(日) 町田幸展

● 笠間焼窯元共販センター 0296-72-5665

● きらら館 0296-72-3109

● 9月23日(土・祝)～10月9日(土) 杉本遊炫・田中千裕 作陶展

● 10月11日(水)～10月22日(日) 岩本倫子 作陶展

● 10月31日(火)～11月12日(日) 小林一富美 作陶展

● 11月14日(火)～11月26日(日) 武内陶房 3人展

● 12月12日(火)～12月24日(日) 駒澤博司 作陶展

● 1月1日(月・祝)～1月14日(日) 陶ひな展

● 1月16日(火)～1月28日(日) 西村俊彦 作陶展

● 1月30日(火)～2月4日(日) 栗原節夫・高橋勝宏 2人展

● 涼 0296-72-0712

● ミュージアムショップ(館内) 0296-72-7105

● レストラン「風の丘」(館内) 0296-72-0197

各店舗で買物をされる際、会員証を提示していただくと、陶器が10%割引となります。(一部除外品があります。)笠間工芸の丘は体験のみ対象です。レストラン「風の丘」は飲み物サービスとなります。

### 友の会からのお知らせ

## 会員募集

茨城県陶芸美術館友の会では、会員を随時募集しています。陶芸が好き、陶芸についてもっと知りたい、体験をしたい・・・そんなあなたの期待に応えます。

一般会員：年会費3,000円

家族会員(※同居家族2人に限る) 年会費(2人で):5,000円

- 特典1** 常設展が、何度でも無料観覧できます。
- 特典2** 企画展が年2回まで無料で観覧できます。
- 特典3** 会報の無料配付(年3回)を受けられます。
- 特典4** 特約店において、陶磁器等の割引が受けられます。
- 特典5** 友の会主催の各種事業に参加できます。

お問合せは茨城県陶芸美術館友の会事務局までお願いします。  
茨城県陶芸美術館友の会事務局(茨城県陶芸美術館内)  
電話 0296-70-0011 / FAX 0296-70-0012

## 編集後記

記録的な暑さも落ち着いて、虫の音が秋の訪れを感じさせます。今年度前半の体験講座は予定通り実施され、その様子をお伝えすることができました。いよいよこれから後半が始まります。後半の事業もみなさんの充実した活動につながるよう願っています。

## 友の会だより No.71

発行：令和5年10月1日  
編集・発行：茨城県陶芸美術館友の会  
〒309-1611 笠間市笠間2345(茨城県陶芸美術館内)  
電話 0296-70-0011 FAX 0296-70-0012  
編集委員：小栗 和子 鈴木 充